

第三段階 初期ユダヤ教宣教

E. イエスはサマリアで弟子を作る

1. イエスはサマリアを通ってユダヤでの宣教を終えることに決める

デイリージーザスニュース #043

ヨハネ4.3-6

3 (パプテスマのヨハネの宣教と競合すると思われるのを避けるために、) イエスはユダヤを去り、再びガリラヤへ戻られました。

4. イエスは、サマリアを通って行く必要があると感じました。5 そこでイエスは、サマリアのシカルという町に来られました。そこは、ヤコブがその息子ヨセフに与えた土地の近くにありました。6 そこにはヤコブの井戸がありました。

イエスは旅ですっかり疲れ果てて、井戸のそばに座った。それは正午ごろのことであった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。** 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ユダヤの荒野、そしてサマリアのシカル
タイムライン	西暦8月30日（第7月）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	E. イエスはサマリアで弟子を作る
タイトル	1. イエスはサマリアを通ってユダヤでの宣教を終える

コメント :

第三段階 初期ユダヤ教宣教

今日の短い朗読では、イエスがユダヤでの初期の宣教地から去る過渡期の旅を紹介します。8月初旬のことでした。イエスはユダヤを去り、他の場所で宣教することを決意しました。ヨハネは、ユダヤでの宣教を終えて北のガリラヤへ移ったイエスの動機を私たちに理解してもらいたいと考えていました。まず、イエスがユダヤを去った理由について考えてみましょう。

ヨハネは以前、ヨハネ4章1節で「イエスは、パリサイ人たちが、イエスがヨハネよりも多くの弟子を集めて洗礼を受けていると聞いていたことを知った…」これが問題の核心でした。なぜこれが私たちの主にとって問題だったのでしょうか。イエスは、罪深い人々がイエスをヨハネと競争していると誤解するという事実に耐えられませんでした。イエスは、誤解された成功よりも団結を重んじました。

の謙虚さに気づいたことがあります。それは予想通りでした。イエスは主であり神です。彼がすべてであり、すべての中にいるのが現実であり、紅海が分かれたように、被造物の中のすべてのものが彼の前に道を譲ります。ヨハネ」の花婿の友人」としての態度は、イエスに対する唯一の適切な態度でした。

イエスの謙虚さと無私無欲さを見てください。彼にはプライドがありませんでした。彼は大きな成功を享受していました。彼の宣教は成長し、ヨハネが彼の宣教活動に毎日新しい求道者を養い、素晴らしいことが可能になりました。しかし、ユダヤに留まることで彼と洗礼者との一体感に対する世間の認識が損なわれるのであれば、イエスは最大の成功地帯を放棄し、ヨハネの支援を受けずに、国で最も軽蔑され、目立たない地域（ガリラヤ）でやり直すことを望みました。たとえその認識が間違っていたとしても。

イエスは、誰かや、どんな状況にもつけ入ることはありませんでした。イエスは常に奉仕者であり、常に与える者でした。なぜなら、イエスは最高の愛者であり、決して何かを奪う者ではなかったからです。無私。謙虚。これが、イエスの動機に見られるものです。

ユダヤからガリラヤへ出発することを決めたイエスは、次に進路を決めなければなりませんでした。ユダヤ人のほとんどは、忌まわしいサマリアを迂回し、呪われた土地とみなしていたその土地をわざわざ迂回しました。ヨハネは後に控えめにこう述べています。」ユダヤ人はサマリア人と交わりを持たないからです。」ヨハネ4:9。対照的に、ヨハネはこう書いています。」イエスはサマリアを通りて旅する必要があると感じられた。」イエスがサマリアを迂回するのではなく、わざわざサマリアを通りて旅し、そこで伝道と弟子作りに取り組んだことは、当時の平均的なユダヤ人にとって非常に不快な行為でした。

少なくとも4種類の偏見が、ユダヤ人とサマリア人を巨大な壁のように隔てていました。(1)宗教的偏見は強力な力を發揮しました。残念ながら、宗教的偏見は、絶対的な真実に対する相反する主張に基づいているため、克服するのがほぼ不可能です。今日に至るまで、宗教的偏見に起因する戦争で、数え切れないほどの人々が亡くなっています。(2)人種的偏見もユダヤ人とサマリア人を隔てていました。この種

第三段階 初期ユダヤ教宣教

の偏見の有害な力は、現代でも非常に活発です。宗教的偏見と人種的偏見は非常に一般的であり、私たちの罪深い本性に深く根付いているため、偏見の自己永続的なエネルギーに(3)伝統の力が加わりました。これら3つは次に(4)経済的偏見を生み出し、偏見の隔ての壁をさらに強化しました。

汚れた土に触れたり、サマリアの不快な空気を吸ったりして汚れを避けるために、旅に1日余分にかかることは価値がありました。一方、サマリア人はユダヤ人を自分たちの町に受け入れませんでした。ルカ9:51-55では、イエス様もガリラヤからエルサレムへの最後の旅で、このようにサマリア人から拒絶されました。よくあることですが、偏見は双方向にありました。

たのにはいくつかの理由が、あります。ここでは、私たち全員に毎日当てはまる2つの主な理由について取り上げます。

まず、イエスが、偏見の罪に対する唯一の解決策である、無条件の、したがって公平な神の愛を示すことが「必要」でした。イエスは、宗教的、人種的、伝統的、経済的偏見、実際あらゆる種類の偏見がすべて間違っていることを世界に示さなければなりませんでした。神の王国では、あらゆる形の偏見が愛の力によって消滅しなければなりません。ユダヤとガリラヤの間を旅するたびに、イエスがサマリアをまっすぐ通ることを主張したことは、すべての人々に対するイエスの愛の証しでした。

第二に、イエスがサマリアを通ることが「必要」だったのは、シカル村で救いを明らかにするという神の定めがあることを知っていたからです。イエスは弟子たちにこう言いました。「わたしの食物は、わたしを遣わした方の御旨を行い、その御業を成し遂げることです。」ヨハネ4:34。イエスは、父がご自分が成し遂げるべき良い業を前もって準備しておられ、その業のいくつかがサマリアで彼を待っていることを知っていました。ですから、ほとんどのユダヤ人がどんな犠牲を払ってでも入ることを拒否した地域を旅して、父の御心を行うことがイエスにとって「必要」だったのです。

神の愛は、いかなる偏見にも加わることを拒否します。偏見の罪深さが普通の行動とみなされるとき、神の愛は違うことを主張します。したがって、神の愛は、今日の世界のあらゆる社会や文化の期待や規範の外で機能します。なぜなら、それらはすべて神の公平な愛と、矛盾する罪深い価値観や伝統を含んでいるからです。

誤解しないでください。イエスは同時代の人々とは根本的に異なっていました。イエスは絶えず彼らの船を揺さぶりました。イエスの似姿に従うことを追求する弟子たちも、それぞれの文化の中では異なつており、根本的です。それは避けられないことです。神の愛は、偏見を含む人間の罪深さとは相容れないほど異なります。イエスに従うなら、異なっていることが「必要」なのです。

サマリアを通るこの旅は、多くの点でイエスの宣教活動の過渡期の旅でした。宣教活動の物理的な場所は変わろうとしていましたが、それは単なる地理的な変化以上のものでした。イエスの宣教活動のパターンの3つの主要な新しい側面がサマリアで現れ、その後ガリラヤでの2年間でさらに発展しました。その3つとは何でしょうか。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

シカルでイエスはユダヤでの典型的なやり方、つまり個人的な伝道から宣教を始めました。しかし、その一対一の出会いはすぐにイエスの宣教の最初の効果的な大衆伝道へつながりました。サマリア人の女性が自ら力強い伝道者であることを証明したからです。彼女の証言を通して町全体がイエスを信じるようになりました。イエスはガリラヤで大衆に説教することに重点を置くことになります。

シカルでの効果的な大衆伝道は、別のことにもつながりました。イエスの宣教活動で初めて、イエスが弟子たちを訓練し、福音を伝える働きにおいて従うよう備えさせた様子を見ることになります。これは私たち一人一人にとって非常に有益な教訓となるでしょう。弟子たちを宣教のために訓練することへのこの重点は、ガリラヤでも継続されました。

さらに、サマリアでのイエスの宣教は、イエスが非ユダヤ人に働きかける最初の機会でした。ユダヤは「本物の」ユダヤ教の本拠地であったため、イエスがそこで宣教を始めたのは、部分的には聖書の世界伝道の「まずユダヤ人に」という流れを成就するためでした。イエスはアブラハムとダビデの実子であり、旧約聖書に完全に従うことでユダヤの律法を成就するためにやって来ました。イエスがユダヤ人として、ユダヤ人の間で、彼らの国の中で宣教を始めたことは重要でした。

一方、ガリラヤはユダヤ人の領土であったにもかかわらず、汚れた場所とみなされていました…「**異邦人のガリラヤ**」。この地域には多くの非ユダヤ人が住んでいました。サマリアで宣教することによって、イエスは、全世界の救世主となつたすべての人々への恵みと無条件の愛を強調することを選択しました…ユダヤ人と異邦人の両方…ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、ガリラヤのすべての人々に宣教することを可能にした同じ恵みです。

イエスが、サマリアで、仲間から拒絶された「放蕩な」女性から宣教を始めることを決意したという事実は、そこで示されたイエスの恵みと愛を、見る者を一層感動的で壮観なものにしています。

応用：

イエスの恵みと愛の素晴らしいは、サマリアの旅で完全に明らかになりました。その上、ヨハネは、イエスがヤコブの井戸の端に座ったとき、旅で「完全に疲れ果てていた」という事実を記しています。イエスはその時、すでに日中の暑い中、少なくとも7時間歩き続けていたのです。非常に疲れた空っぽの器から、恵みの力強い奔流が流れ出ようとしていたのです。

イエスが、ご自身が肉体的に非常に弱っているときに、力強く奉仕されたという事実は、イエスの無私無欲と慈悲深さを際立たせています。それはまた、イエスが後に使徒パウロに伝えた原則の手本でもあります。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さの中で完全に發揮される。」コリント人への手紙二 12:9。イエスはこの原則に従って生きました。したがって、イエスはご自身の弱さを経験したのとまったく同じように、私たちの弱さにも共感することができます。

信仰をもってイエスに力を与える恵みを求めるとき、ヤコブの井戸のそばで疲れ果てて座っていたイエスを常に思い出してください。

イエスの力があなたの中で完全に發揮されるように、今日、あなたはどの弱点をイエスに委ねる必要があるりますか。

あなたの文化では、偏見のどのような側面が普通だと考えられていますか？あなたの状況で、イエスの無条件の愛を分かち合うことで、あなたはどのように違うでしょうか？